

入選

自分にできること

香川県 仁尾小学校 4年 藤田 柚葉

わたしは、海辺のごみ拾いのボランティアに参加したことがあります。いろいろな人がごみぶくろを持って海辺のごみを拾っていきます。

はじめは(めんどくさいなあ)と思っていました。でも、拾っているうちにだんだん楽しくなってきた、いつのまにかむちゅうになっていました。

海辺には、いろいろなごみが捨てられていたり、流れついたりしています。ペットボトルやカンやビン、ビニールぶくろなどがたくさんありました。なかには、くつやサンダル、洋服などもありました。ごみぶくろにはいったままのごみまでありました。

捨てられたごみを見ているうちに、とてもいやな気持ちになっていました。

「海は、ごみ箱じゃないのに。」

まるで、海が地球のごみ箱になっているみたいで悲しくなりました。きれいにしたいなあと思いました。

だから、いっしょうけんめい拾いました。もう、めんどくさいとか、しんどいとか思わなくなっていました。

大人の人たちは大きなごみを拾ってくれていました。わたしは、小さなごみもていねいに拾いました。ごみぶくろが少しずつふくらんでいくと、それだけこの海辺からごみがへっているんだと思って、どんどん拾いました。ごみぶくろが大きくなるとうれしくなりました。はじめはごみがたくさん見えていた海辺も、どんどんきれいな砂浜になっていきました。

あせをいっぱいかきました。自分が飲んだペットボトルも、ちゃんとごみぶくろに入れました。みんながちゃんとごみを捨てれば、こんなにごみが集まることもないのに、と思いながら。

仁尾には、「父母ヶ浜」という自まんの海辺があります。“インスタばえ”で有名になり、今では世界中からかんこう客がやってきます。そんな人たちに、「きれいな海だなあ。」と思って帰ってほしいです。

また、かんきょうの勉強で、「マイクロプラスチック」についても調べました。すべてのごみは最後に海に流れつき、プラスチックは長い時間をかけてプランクトンくらい小さくなって魚が食べてしまうのだそうです。それを最後に食べるのは、わたしたち人間です。こわいなあと思いました。

ごみ拾いが終わってふり返ると、すごくきれいな海と砂浜がありました。(参加してよかったなあ)と思いました。これからも、自まんの海を守っていこうと思いました。

「ごみはごみ箱へ」。こんなあたりまえのことをあたりまえにできる大人になります。今はまだ小さなことしかできないけれど、小さなことでもいっしょうけんめいしようと思います。